

STORY 4

「人、モノ、情報が行き交った
街道と宿場町の物語」

Route

「人々が行き交い、賑わった“まち”へ タイムスリップする旅」



玉名市



高瀬のまちなみ

米の集積地、積み出し港として栄え、政治・交通の要所であった高瀬地区。本通りには商店や民家など趣ある漆喰の建物が今なお軒を連ね、南側には積荷を行った川が流れている。

史跡・まちを訪ね、昔年の賑わいに触れる

長い歴史の中で、多くの人々が歩き、通ったであろう道には、今なお史跡が多く残っている。当時道を行き交う人々は、行列をなして通った参勤交代もあれば、行商で通った商人、旅をする町人もいただろう。そんな人々を想像しながら道中の史跡巡りを楽しむのもまた一興だ。

唐人舟繋ぎの銀杏

斜面5~6mの高さの崖の上に立つ銀杏(イチョウ)の木。昔は崖下まで海があり、唐船をこの木に繋いだと言われることから由来する。



玉名市

和水町

腹切坂

道幅が狭く、両側が崖であったことから屈指の難所と伝えられている場所。平氏の落ち武者や、江戸時代の飛脚などがその難所ゆえに、絶望し腹を切ったという逸話が残されている。



岩本橋

江戸時代、阿蘇凝灰岩の切岩を二重に築いて造られた珍しい石橋。肥後と筑後を結ぶ藩境だった川に架けられている。県指定重要文化財。



荒尾市

万田坑

採炭場の跡地。1997年の三池炭鉱閉山後も堅坑やレンガ造りの建物、施設の一部が残され、国の重要文化財と史跡に指定されている。



荒尾市